

一般財団法人

日本看護学教育評価機構

JABNE Japan Accreditation Board for Nursing Education

Information



目次

ご挨拶	1
看護学分野別評価	2
概要	3
評価事業	4
研修事業	5
会員交流事業	6
正会員・賛助会員	7
組織	10

日本看護学教育評価機構は、日本看護系大学協議会を設立者とする一般財団法人として2018年発足しました。本機構の目的は機構の概要にお示ししている通りですが、端的に大学における看護学教育プログラムの評価活動を通して看護学教育の質の向上を図ることにあります。

高等教育機関の質保証としては既に機関別評価が法制化されていますが、これに加えて分野別評価を行うのはなぜか、その必要性和重要性を述べたいと思います。

最初に、日本の看護学教育の急速な大学教育化があります。専門学校の歴史が長く、大学教育はわずか11校の時代が続きましたが、1992年看護師等の人材確保の促進に関する法律の制定を機に、この30年の間に300に近い学士課程数となりました。大学教育への移行は本来歓迎すべきですが、教員不足や臨地実習施設の確保困難などの避けがたい問題が生じ、教育の質が懸念されます。看護学学士として世に出る卒業生への責任、卒業生を看護職として育てる保健医療福祉の現場への責任、そして看護を必要とする人々、国民への責任は、大学教育を担う者が共に引き受けるべきと考えます。看護学教育評価の仕組みを整え、各大学が受審することはその責任を果たすことに他なりません。

次に、大学における看護学教育の位置づけの多様さがあります。看護学教育の設置形態は、単科大学、看護学部、〇〇学部看護学科、さらには〇〇学科看護学専攻と多様です。この多様さは教員組織基盤の堅固さに関わります。教育に関する意思決定と責任の所在、教育予算の獲得・執行権限などです。これは教育評価にも関係します。機関別評価では教育プログラムに関する評価は学部以上であり、学科や専攻ではあまり触れられません。つまり、看護学教育の内容、成果には焦点が当てられず、自己点検・評価の文化が育ちにくいと言えます。本機構の看護学評価の受審は、設置形態に関わらず看護学教育を担う教職員の主体的な取り組みや教育の見直しにつながります。

最後に、大学における看護学教育も保健師助産師看護師学校養成所指定規則の適用を受けます。さらに、日本看護系大学協議会のコアコンピテンシーや文部科学省のモデル・コア・カリキュラムなどの枠組みが示されており、各大学にはこれらを考慮に入れることが求められます。一方で、大学教育では建学の精神や教育研究上の目的を反映させた教育課程と教育活動が求められます。機構の評価基準は、最初に「教育理念・教育目標に基づく教育課程の枠組み」を挙げています。分野別評価は、改めて自大学の拠って立つところ、目指すところを確認し、社会における看護学教育の位置やあり方を検討する機会になります。

現会員校139校のうちこれまでに26校が受審しました。この中には、長い間問題とされていたことが、関係部署間の話し合いが進み解決した、自己点検・評価報告書では課題と記されていた事項が、実地調査時には改善されていたなど、受審を好機にしている大学も少なくありません。多くの大学にこの機会を生かしていただけるように、機構として評価事業の発展に努めていきたいと考えております。



一般財団法人
日本看護学教育評価機構
代表理事 高田早苗

看護学分野別評価

看護学分野別評価とは

1. 分野別評価は看護学教育の質向上を図ることをねらいとしています

学位を授与する高等教育においては、学修成果を重視するという方向で教育プログラムの評価が求められてきています。高等教育機関としての大学の組織・管理運営や施設・整備等を重視する機関別評価に比べ、分野別評価は学部（学科、専攻）単位での評価となり、看護学分野のカリキュラムやシラバス、学修成果の適切性、教育・学習方法、教員の教授力など実際の教育活動を評価します。

この評価は、本機構の正会員の大学に所属する教員間でのピアレビューです。

2. 評価プロセスで教職員が成長します

看護学の教育活動を評価するプロセスを通して、教員・職員・学生がそれぞれの責務を十分に認識でき、より自発的に継続的な質改善に取り組むことができます。学部・学科に所属する教員が求められている教育を理解する機会となり、帰属意識を高め、看護学教育を充実・発展させる大きな契機となります。

3. 分野別評価の認定は社会にアピールできます

分野別評価は、看護学という学問を社会に周知する有効な手立てです。受審校にとっては分野別評価での認定が、質保証の証左として受験生や保護者、就職先等を含む社会に対してのアピールとなります。

認定マーク

日本看護学教育評価機構の看護学教育評価を受審し、適合と判定された大学には認定証および認定マークが交付されます。認定マークを大学パンフレットやWebサイト等に掲載することで、受験生や医療機関等の受け入れ先に看護学教育の質が保証されていることを広く社会に示すことができます。

※認定マークはJABNEロゴマークと共に商標登録をしています。



概要

沿革

2002年	日本看護系大学協議会（以下JANPU）が看護学分野別評価に着手 海外の情報収集および評価基準の検討を実施
2007年～2011年	JANPUは文部科学省委託事業を受け、3回にわたり8校の試行評価を実施、 報告会を重ねる。この間に、教育の質保証には機関別評価だけではなく、 学問分野別評価が重要であるという方向性が示される。また、看護系大学 が急増する中で、評価の公正さ、社会への責任の観点から、独立した組織 をつくり事業の遂行にあたる必要性が明確となる。
2015年	JANPU総会において機構の設置と設置準備金として積み立てた3,000万円 を原資として拠出することを承認
2018年10月15日	一般財団法人日本看護学教育評価機構（以下JABNE）設立
2019年	受審校説明会の開催、評価員研修の実施
2020年	看護学教育評価を開始

目的と事業

目 的	日本の大学における看護学教育の質を保証するために、看護学教育プログラムの 公正かつ適正な評価等を行い、教育研究活動の充実と向上を図ることを通して、 国民の保健医療福祉に貢献することを目的としています。
------------	--

事 業	(1) 看護学教育プログラムの評価事業 (2) 評価基準の作成及び改定 (3) 看護学教育プログラムの充実・向上に関する支援事業及び調査研究 (4) 看護学教育評価に関する広報活動 (5) 関連諸団体との連携事業
------------	--

会員制度

本機構は正会員と賛助会員を設けています。本機構の目的及び事業に賛同した看護系大学等を構成員とし、会費と受審料で運営します。また、会員校向けに評価事業および評価事業に関わる各種イベントの案内などを行っています。

本機構の意義をご理解の上、加入していただけますよう、お願い申し上げます。

正 会 員	年会費10万円（会費の有効期間は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる1年とします）。 本機構の目的および事業に賛同する看護系大学（教育課程単位）。正会員は、この法人の事業を支える日本看護系大学協議会に加盟している学校に限ります。
--------------	--

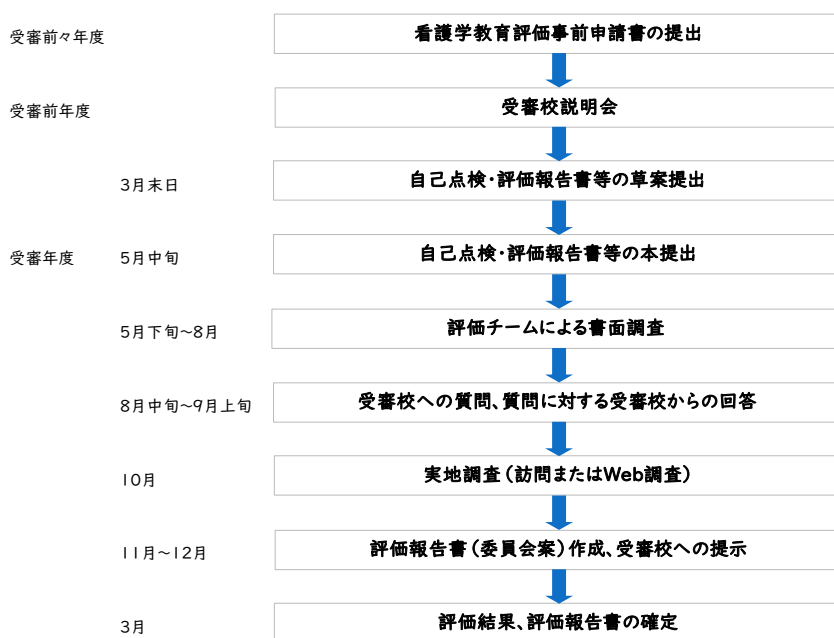
賛助会員	一口30万円、一口以上。 本機構の目的に賛同し、事業を賛助いただく個人や団体。
-------------	--

評価事業

受審の要件

1. 機構の会員であり、年会費を納入していること。なお、2回目以降の受審では、その間も会費納入を継続していること。
2. 学部・学科等設置後完成年次を迎え、卒業生を輩出しており、完成年次の文部科学省の設置計画履行状況等調査を終了していること。
3. 機関別認証評価を受審し、適合と認証されていること。
※受審校の決定に際しては、会員歴の長い大学を優先する。
※看護学教育評価受審料：150万円（税別）

評価のプロセス



評価基準

評価基準1 教育理念・教育目標に基づく教育課程の枠組み

当該大学の教育理念・教育目標、ディプロマ・ポリシーと一貫した、看護学学士課程の教育理念・教育目標、ディプロマ・ポリシーに基づき当該大学独自の教育課程の枠組みができていること。

評価基準2 教育課程における教育・学習活動

教育課程の枠組みに沿った教科目が配置され、その内容、担当する教員、教育方法が適切であり、学生自ら学習できる環境が整っていること。

評価基準3 教育課程の評価と改革

各教科目及び教育課程を組織的に評価し、評価結果に基づき継続的に改善・改革する体制を整備し、実行していること。

評価基準4 入学者選抜

看護学学士課程の教育理念・教育目標、ディプロマ・ポリシーに賛同して学修を希望する入学生を獲得するために、アドミッション・ポリシーを明示し、それに合った入学者選抜を行っていること。

研修事業

評価員研修

評価員基礎研修

会員校からの推薦により、初めて評価員として登録した教員を対象に、分野別評価の意義や仕組み、評価基準等、分野別評価に関する基礎的事項に対する理解を促すことをねらいとします。



参加者の声

- ・ グループワークを通し他大学の状況を知ることで、自大学の課題が明確になった。
- ・ 教育課程を見直すことで、カリキュラム改正に役立つ。
- ・ 自大学の実際を評価項目に照らして説明することで改めて特徴を確認できた。

審査前チーム研修

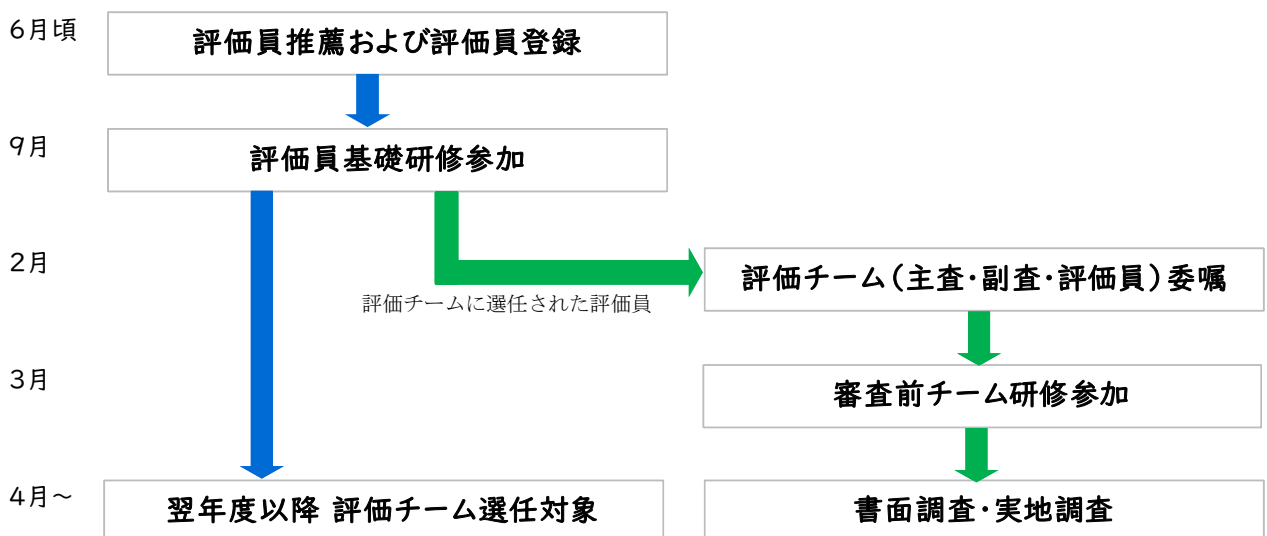
評価チームに選任された評価員を対象に、次年度の受審校の審査に携わるにあたり、評価員としての具体的な役割認識につながるよう、シミュレーションにより実際の評価活動を体験します。



参加者の声

- ・ 評価基準に関連づけて評価の観点をみていく必要性が学べた。
- ・ グループワークを行うことで、実際の評価チーム会議のイメージがつかめた。
- ・ 根拠資料を求める基準や留意点を理解することができ、「評価者として何をすべきか」がわかった。

評価員登録後のプロセス



会員交流事業

JABNE研修交流集会

2023年8月22日（火）にオンラインにて、会員校の教職員および登録評価員等の相互交流を目的とした、「第1回JABNE研修交流集会」を開催しました。研修会終了後もオンデマンド配信によっていつでも有益な情報に触れることができ、教員間の情報共有が可能です。

第1部 特別講演

「教学マネジメント：基礎と応用」をテーマに、外部講師をお招きし、看護学教育の質向上のためには欠かすことのできない教学マネジメントの概要や重要なポイントについて解説していただきました。

講演後は、参加者からの質問に丁寧にご回答いただきました。より理解が深まったと好評で、継続的な開催を望む声が多数挙がりました。

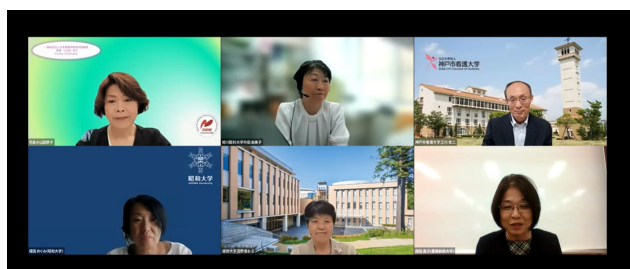


参加者の声

- 教学マネジメントの内容と分野別評価のつながりを実感することができた。
- 今まで理解し難かった教学マネジメントの細部で腑に落ちることがいくつもあった。
- 今後の教育活動や自己点検・評価に大変役立つ内容だった。
- オンデマンド配信を利用し、自大学の全教員を対象に研修会を実施したい。

第2部 パネルディスカッション

「受審準備と受審により生じた学内外の変化」をテーマに、適合認定を受けた大学を代表して3名の教員が受審経験について発表し、パネルディスカッションが展開されました。受審にあたっての具体的な計画からスケジュール、役割分担や、教員のモチベーションの高まり、評価を受けた特徴的な取り組みなどを率直に語っていただきました。



実体験を聞くことで、自己点検・評価を進めている大学やこれから受審を計画している大学にとっては不安の解消につながり、受審経験校にとっては自大学の評価を振り返る機会となりました。看護学教育評価受審の意義を感じていただけるセッションとなりました。

参加者の声

- 「受審は教育課程の改善につながる」ということを実感した。
- 受審準備のスケジュールや組織体制づくりを具体的に伝えてもらうことで安心できた。
- 成果を可視化し、根拠となる資料を蓄積しておくことの重要性を感じた。
- 評価員として関わった大学の意義を聞くことができ、大きな励みになった。

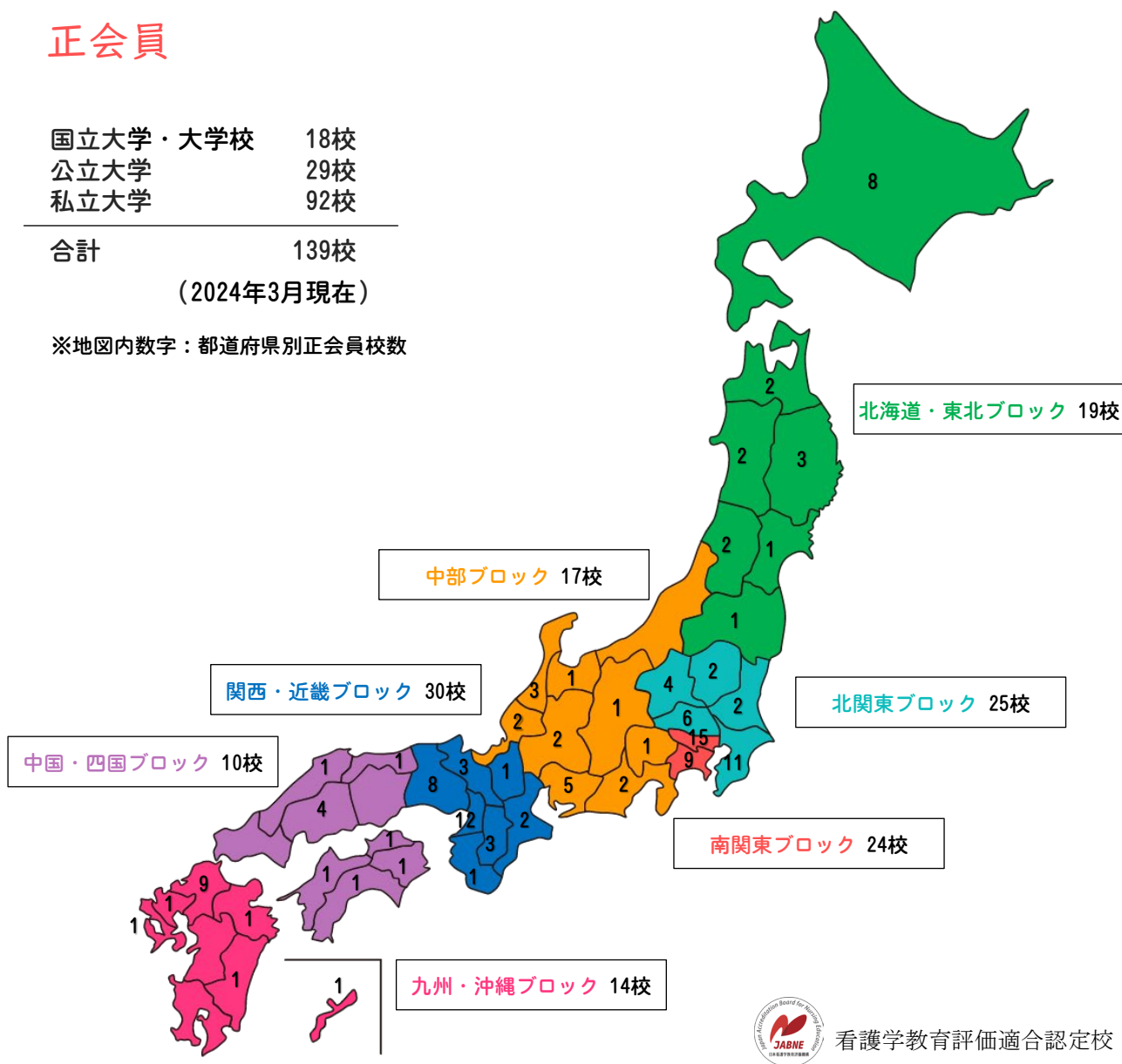
正会員・賛助会員

正会員

国立大学・大学校 18校
 公立大学 29校
 私立大学 92校



合計 139校
 (2024年3月現在)

※地図内数字：都道府県別正会員校数




北海道・東北ブロック 19校 (国立大：3校、公立大：6校、私立大：10校)

■北海道 8校

- 北海道文教大学医療保健科学部看護学科 (私)
-  札幌医科大学保健医療学部看護学科 (公)
- 天使大学看護栄養学部看護学科 (私)
- 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 (私)
-  旭川医科大学医学部看護学科 (国)
- 名寄市立大学保健福祉学部看護学科 (公)
- 北海道医療大学看護福祉学部看護学科 (私)
- 日本赤十字北海道看護大学看護学部看護学科 (私)

■青森 2校

-  青森県立保健大学健康科学部看護学科 (公)
- 弘前学院大学看護学部看護学科 (私)


■岩手 3校

- 岩手県立大学看護学部看護学科 (公)
- 岩手医科大学看護学部看護学科 (私)
- 岩手保健医療大学看護学部看護学科 (私)

■宮城 1校

- 宮城大学看護学群看護学類 (公)

■秋田 2校

-  秋田大学医学部保健学科看護学専攻 (国)
- 日本赤十字秋田看護大学看護学部看護学科 (私)

■山形 2校

- 山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科 (公)
- 山形大学医学部看護学科 (国)

■福島 1校


- 医療創生大学看護学部看護学科 (私)

北関東ブロック 25校 (国立大：1校、公立大：4校、私立大：20校)

■茨城 2校

茨城キリスト教大学看護学部看護学科 (私)
茨城県立医療大学保健医療学部看護学科 (公)


■栃木 2校

 獨協医科大学看護学部看護学科 (私)
自治医科大学看護学部看護学科 (私)



■群馬 4校

群馬県立県民健康科学大学看護学部看護学科 (公)
群馬大学医学部保健学科看護学専攻 (国)
高崎健康福祉大学保健医療学部看護学科 (私)
上武大学看護学部看護学科 (私)

■埼玉 6校





目白大学看護学部看護学科 (私)
 東京家政大学健康科学部看護学科 (私)
西武文理大学看護学部看護学科 (私)
埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科 (公)
日本赤十字看護大学さいたま看護学部看護学科 (私)
日本保健医療大学保健医療学部看護学科 (私)

■千葉 11校


城西国際大学看護学部看護学科 (私)
秀明大学看護学部看護学科 (私)
千葉科学大学看護学部看護学科 (私)
東京情報大学看護学部看護学科 (私)
三育学院大学看護学部看護学科 (私)
順天堂大学医療看護学部看護学科 (私)
 千葉県立保健医療大学健康科学部看護学科 (公)
 淑徳大学看護栄養学部看護学科 (私)
帝京平成大学健康医療スポーツ学部看護学科 (私)
亀田医療大学看護学部看護学科 (私)
東邦大学健康科学部看護学科 (私)

南関東ブロック 24校 (国立大・大学校：2校、公立大：4校、私立大：18校)

■東京 15校

 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 (私)
 東京医科大学医学部看護学科 (私)
 帝京大学医療技術学部看護学科 (私)
東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻 (国)
東京女子医科大学看護学部看護学科 (私)
日本赤十字看護大学看護学部看護学科 (私)
東京純心大学看護学部看護学科 (私)
国立看護大学校看護学部看護学科 (国)
武蔵野大学看護学部看護学科 (私)
東京都立大学健康福祉学部看護学科 (公)
杏林大学保健学部看護学科 (私)
帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科 (私)
 聖路加国際大学看護学部看護学科 (私)
共立女子大学看護学部看護学科 (私)
東邦大学看護学部看護学科 (私)

■神奈川 9校


慶應義塾大学看護医療学部看護学科 (私)
 昭和大学保健医療学部看護学科 (私)
北里大学看護学部看護学科 (私)
神奈川工科大学健康医療科学部看護学科 (私)
横浜市立大学医学部看護学科 (公)
神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科 (公)
東海大学医学部看護学科 (私)
川崎市立看護大学看護学部看護学科 (公)
湘南医療大学保健医療学部看護学科 (私)

中部ブロック 17校 (国立大：6校、公立大：3校、私立大：8校)

■富山 1校

富山大学医学部看護学科 (国)

■石川 3校

 金沢医科大学看護学部看護学科 (私)
石川県立看護大学看護学部看護学科 (公)
金城大学看護学部看護学科 (私)

■福井 2校

福井大学医学部看護学科 (国)
敦賀市立看護大学看護学部看護学科 (公)


■山梨 1校

山梨大学医学部看護学科 (国)

■長野 1校

信州大学医学部保健学科看護学専攻 (国)


■岐阜 2校

 岐阜大学医学部看護学科 (国)
岐阜保健大学看護学部看護学科 (私)

■静岡 2校


浜松医科大学医学部看護学科 (国)
順天堂大学保健看護学部看護学科 (私)

■愛知 5校

椋山女学園大学看護学部看護学科 (私)
豊橋創造大学保健医療学部看護学科 (私)
日本赤十字豊田看護大学看護学部看護学科 (私)
 愛知医科大学看護学部看護学科 (私)
愛知県立大学看護学部看護学科 (公)

関西・近畿ブロック 30校（国立大：1校、公立大：7校、私立大：22校）

■三重 2校

-  三重県立看護大学看護学部看護学科（公）
- 三重大学医学部看護学科（国）




■滋賀 1校

- 聖泉大学看護学部看護学科（私）



■京都 3校

- 京都橘大学看護学部看護学科（私）
- 京都看護大学看護学部看護学科（私）
- 京都府立医科大学医学部看護学科（公）

■大阪 12校

- 梅花女子大学看護保健学部看護学科（私）
- 摂南大学看護学部看護学科（私）
-  千里金蘭大学看護学部看護学科（私）
- 大阪公立大学看護学部看護学科（公）
-  大阪医科薬科大学看護学部看護学科（私）
-  森ノ宮医療大学看護学部看護学科（私）
- 関西医科大学看護学部看護学科（私）
- 大阪青山大学健康科学部看護学科（私）
- 宝塚大学看護学部看護学科（私）
- 太成学院大学看護学部看護学科（私）
- 藍野大学医療看護学部看護学科（私）
- 四天王寺大学看護学部看護学科（私）

■兵庫 8校

- 兵庫大学看護学部看護学科（私）
- 兵庫医科大学看護学部看護学科（私）
-  兵庫県立大学看護学部看護学科（公）
- 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科（私）
- 関西福祉大学看護学部看護学科（私）
- 武庫川女子大学看護学部看護学科（私）
-  神戸市看護大学看護学部看護学科（公）
- 神戸女子大学看護学部看護学科（私）

■奈良 3校

- 奈良県立医科大学医学部看護学科（公）
- 奈良学園大学保健医療学部看護学科（私）
- 畿央大学健康科学部看護医療学科（私）

■和歌山 1校

- 和歌山県立医科大学保健看護学部保健看護学科（公）

中国・四国ブロック 10校（国立大：3校、公立大：2校、私立大：5校）

■鳥取 1校

- 鳥取大学医学部保健学科看護学専攻（国）

■島根 1校

- 島根大学医学部看護学科（国）

■広島 4校

- 日本赤十字広島看護大学看護学部看護学科（私）
- 福山平成大学看護学部看護学科（私）
- 安田女子大学看護学部看護学科（私）
- 広島文化学園大学看護学部看護学科（私）

■徳島 1校

- 四国大学看護学部看護学科（私）

■香川 1校

- 香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科（公）

■愛媛 1校




- 愛媛大学医学部看護学科（国）

■高知 1校

- 高知県立大学看護学部看護学科（公）

九州・沖縄ブロック 14校（国立大：2校、公立大：3校、私立大：9校）


■福岡 9校

- 福岡看護大学看護学部看護学科（私）
- 福岡大学医学部看護学科（私）
- 日本赤十字九州国際看護大学看護学部看護学科（私）
-  純真学園大学保健医療学部看護学科（私）
-  聖マリア学院大学看護学部看護学科（私）
- 福岡県立大学看護学部看護学科（公）
-  久留米大学医学部看護学科（私）
- 産業医科大学産業保健学部看護学科（私）
- 帝京大学福岡医療技術学部看護学科（私）

■佐賀 1校

- 西九州大学看護学部看護学科（私）

■長崎 1校

-  長崎大学医学部保健学科看護学専攻（国）

■大分 1校

- 大分大学医学部看護学科（国）

■宮崎 1校

- 宮崎県立看護大学看護学部看護学科（公）

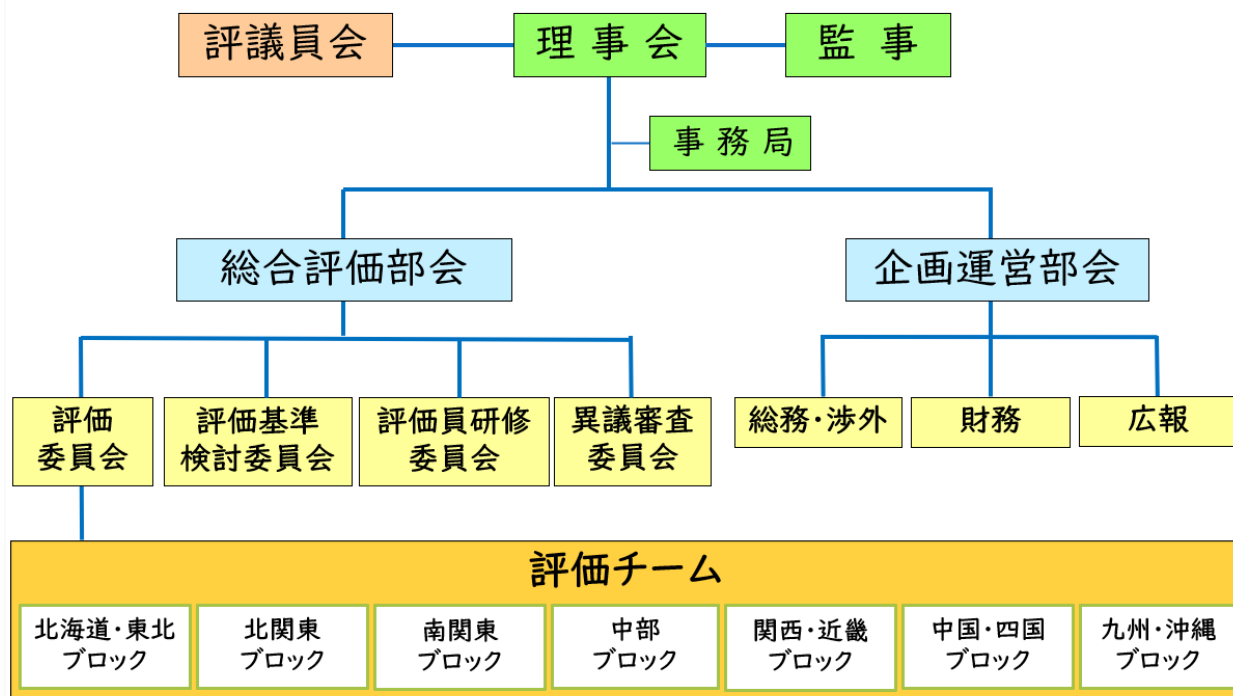
■沖縄 1校

- 名桜大学人間健康学部看護学科（公）

賛助会員

株式会社 医学書院（医学・看護関連領域出版）

組織



役員

■理事

<代表理事>

高田早苗

<常任理事>

田村やよひ

<業務執行理事>

井上智子(国際医療福祉大学)

大日向輝美(札幌保健医療大学)

<理事>

茂野香おる(淑徳大学)

北 素子(東京慈恵会医科大学)

片岡 純(愛知県立大学)

秋元典子(甲南女子大学)

工藤美子(兵庫県立大学)

大川宣容(高知県立大学)

大西真由美(長崎大学)

小山田恭子(聖路加国際大学大学院)

角濱春美(青森県立保健大学)

■監事

小松浩子(日本赤十字九州国際看護大学)

鈴木志津枝(神戸常盤大学)

評議員

鎌倉やよい

(一般社団法人日本看護系大学協議会 代表理事)

島袋香子

(一般社団法人日本私立看護系大学協会 会長)

西村ユミ

(一般社団法人日本看護系学会協議会 理事)

堀内成子

(一般財団法人日本助産評価機構 理事長)

田母神裕美

(公益社団法人日本看護協会 常任理事)

戸田 潤

(有識者・一般社団法人薬学教育評価機構 前事務局長)

和住淑子

(有識者・千葉大学大学院看護学研究院 教授)

(2024年3月現在)

一般財団法人 日本看護学教育評価機構
〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-11-5 大沢ビル4F
☎ 03-3526-2436 ✉ office@jabne.or.jp

発行日 2024年3月 |